

高師泰奉書（俣賀家文書）

周防国凶徒退治事、被抽

軍忠之由、曾我四郎左衛門尉

所注申也、殊以神妙、弥

可被致忠節之状、依仰執達如件、

觀応元年十二月七日 越後守（高師泰）（花押）

内田左衛門三郎殿（俣賀致弘）

【解説】

高師泰が俣賀致弘に宛てた奉書（主君の

意向を家臣が伝える文書）です。

差出の高師泰は、足利尊氏の執事（側近

筆頭）高師直の弟で、兄同様に尊氏の側近

を務めました。

宛名の俣賀致弘（内田左衛門三郎）は、

いわみのくにとよたごう

石見国豊田郷俣賀（益田市本俣賀町）の

じとう

地頭です。もとは遠江国内田荘（静岡県

とおとうみのくのうちだのしょう

菊川市）の地頭であつた内田氏が豊田郷

（益田市横田町を中心とする地域）の地頭

となり、その分家の俣賀氏が俣賀を治めて

いました。鎌倉時代の後半には内田氏と俣

賀氏はそれぞれ別の家として活動してい

ます。この頃の俣賀氏は、もともとの名字

である内田と称したり、治めている地域を

とつて俣賀と称したりしていました。

この文書が出された前年の貞和五年（一

じょうわ

三四九）、尊氏の弟直義と高師直・師泰の

ただよし

関係が悪化しました。観応元年（一三五〇）、
長門探題ながと探題だいの足利直冬ただふゆ（尊氏の実子、直義の
養子）が反尊氏の活動を活発化させると、
これを討つために高師泰は中国地方に向
かいました。

この文書は、俣賀致弘が尊氏・高師泰方
に味方し、周防国すおうのくに（山口県東部）で足利直
義・直冬方の勢力と戦ったことに対する、
尊氏の感謝を、側近として高師泰が伝えた
ものです。

【附記】この文書は、令和2年6月29日、
益田市にゆかりのある元皇學館大学教授こうがつかん
の恵良宏氏えらひろむから市に寄贈いただきました。